

避難所における簡易組立パネルの開発

研究概要

キーワード 避難所／組立パネル／減災

発災時には多くの被災者が体育館などの大空間で数か月、プライベートが確保されない生活を強いられる。プライベートが確保されない、避難所設備が十分でないなど、被災者の負担が大きいことが問題となっている。

軽量の発泡材を適用して、発災時の避難所において、居住空間を確保するために、容易に組立が出来るようなパネルを開発する。

避難所において、プライバシーを確保するためにテントなどが設置されたりしている(写真1)

避難所においては、プライバシーの確保と共に快適性が要求される。

図2に示すような発泡剤のパネルを組み立てて空間を構成できるものを開発する。



写真1 運動場に設けられたテント

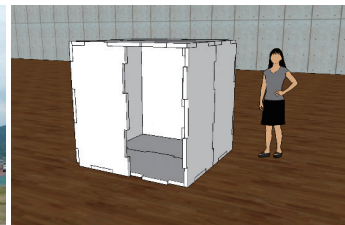


図2 組立パネル

今後の展開やメッセージ

多くの避難所に簡単に設置できるものを開発中である。ひとつのポイントは常時でも非常時にも有効に利用できるものを開発することと考えている。

研究者情報



後藤 正美 教授・博士(工学)

建築学部 建築学科

所属研究所：地域防災環境科学研究所、地方創生研究所

金沢工業大学建築学科卒。京都工芸繊維大学工学研究科修士課程(建築学)修了。1983年本学助手就任。講師、助教授を経て、2008年現職。

研究者情報URL

<https://researchmap.jp/read0032072>